

西要寺だより

第104号 令和3年12月2日

●報恩講法要のご報告

当初、10月22日23日で予定しておりました報恩講法要ですが、1ヶ月延期し、11月22日23日の2日間、お勤めさせていただきました。22日は雨にもかかわらず約40人、23日は約35人のお参りでした。



両日共に、午後2時より『正信念仏偈』のお勤めをし、そのあと、約50分間、浄土真宗本願寺派総合研究所教学伝道研究室室長 龍谷大学講師の佐々木義英先生にご法話をさせていただきました。

聖徳太子は、推古30年（622）旧暦2月22日（太陽暦4月11日頃）に49歳で亡くなられたので、今年は没後1400年ということで、四天王寺などの太子ゆかりのお寺では法要が勤められました。

さて、西要寺本堂の御本尊に向かって右に、聖徳太子の御軸を懸けさせていただいていることはご存じでしょうか。右の写真は西要寺本堂の聖徳太子像掛け軸です。

親鸞聖人は聖徳太子を「和国の教主」、つまり日本においては釈迦さま、仏教を弘めてくださった方として尊崇されておられました。また、親鸞聖人は「和讃」をたくさん作られております。「和讃」とは、たとえば『正信偈』のお勤めの時に、漢字だけでなく、カナ混じりのものも拝読しますが、そのカナ混じりのものを「和讃」といい、親鸞聖人は、聖徳太子を讃える「和讃」も多く作られました。このように親鸞聖人は聖徳太子を尊崇されていたということもあって、浄土真宗の本堂には聖徳太子の御軸を奉懸している、ということです。



京都市内に六角堂というお寺があることをご存じですか。正式な寺院名は頂法寺というのですが、右下の写真のように、上空からみると六角形のお堂ということで通称、六角堂と称されています。その六角堂は聖徳太子が建てられたお寺と言われています。親鸞聖人が9歳で出家得度され比叡山で修行をされるのですが、29歳の時に比叡山を下りられ、法然聖人のもとに行かれます。比叡山にとどまるか、山を下りるかに悩まれた親鸞聖人は、六角堂に百日の参籠をすることを決断されます。その95日目の暁に聖徳太子（救世観音がこの世に生まれられた姿と言われていました）から夢のお告げを受けて法然聖人のもとへ行かれるのです。その夢のお告げの内容についてははっきりとは伝わっていないのですが、親鸞聖人が聖徳太子のことを讃えられていた文章のなかで、次のようなものがあります。



意識しますと、我が身（聖徳太子）は観世音菩薩、我が身（聖徳太子）の妻は勢至菩薩、我が身（聖徳太子）を育てた母は阿弥陀仏である。つまり、それぞれ仏・菩薩の生まれ変わり、ということです。観音菩薩の生まれ変わりである聖徳太子は、阿弥陀如来の生まれ変わりである母によって育てていただいた。阿弥陀如来のお念仏の教えを観音菩薩も弘められます。聖徳太子として生まれられた観音菩薩は阿弥陀如来のお念仏の教えを弘めた方として見られていったのでしょうか。親鸞聖人を偲び、いまこの私に阿弥陀如来の救いのはたらきが届いているという浄土真宗の教えをいただいていくことができるのは、親鸞聖人のおかげであるという思いから報恩講法要をお勤めさせていただきました。

●今月の掲示板

「苦をまぬがれるには その苦を 生かしていく道を 学ぶことです」という言葉を西要寺の掲示板に貼っております。蓬茨祖運（ほうしそうん）という真宗大谷派の僧侶、九州大谷短期大学の学長をされていた方の言葉です。親鸞聖人は法然聖人とともに流罪に遭われています。そのときに、法然聖人は流罪になったことに対して恨んだりせずに、むしろ

弟子たちには、京都以外の地で念仏の教えを広めることができるご縁を阿弥陀様から恵まれたとプラス思考でとらえるべきであると言われた、と伝えられています。様々な逆境に対して不平不満をついつい言っていますが、何事も良いように考えていくということが苦をまぬがれるということでしょう。

●西要寺納骨堂につきて

門徒の方のご要望もあって、西要寺納骨堂を作りました。もうすでに数件の申し込みがあります。また、興味を示される方も多く、予想以上で驚いております。納骨堂については、遠方にお墓がありますが、なかなか行けないということもあって、遠方のお墓から納骨堂に遷されるケースもあります。お墓終（しま）いにつきては、お墓のある霊園が石材業者を決めていない場合は、石材屋さんを西要寺で紹介することもできます。また、神戸や京都に納骨しているのだけれども、近くでお参りすることが出来たらいいのでと言って、遷される方もおられます。各ご家庭でさまざまなケースがあると思いますので、気軽にご相談ください。納骨堂の場所は山門の西側の部分（部屋）です。

●YouTube（ユーチューブ）を始めています

それからYouTube（ユーチューブ）も始めています。12月1日現在で、桜編・新緑編・彼岸編をあげています。住職の次女が編集を行っています。定期的にあげていく予定ですので、宜しくお願いいたします。



西要寺YouTube ⇒



●今後の定例法座について

今後の西要寺の法座（毎月22日開座）につきては、12月22日（午後2時より）を予定しております。2月と3月の22日（午後2時より）も予定しております。広い本堂を有効的に使い、間隔を空けて椅子を配置し、窓を空けて換気もしております。椅子や出入り口の消毒

についても、坊守が欠かさず毎行行ってくれていますが、新型コロナウイルスの新たな変異株オミクロン株の感染拡大の可能性も専門家の間で指摘されております。緊急事態宣言が再び発令された場合は、法要を中止させていただきます。西要寺ホームページや西要寺の南と北の掲示板、「西要寺だより」などでお知らせします。直接、お寺に電話していただいても構いません。気軽に法座にお参りください。

《写真集》



西本願寺の銀杏が真っ黄色できれいでした（11月29日撮影）。

◎今後の西要寺行事予定◎

【定例法座】12月22日（水）午後2時より

講師：塚本 一真師

（浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員 京都女子大学講師）

場所：西要寺本堂

【新年会】中止

【定例法座】2月22日（火）午後2時より

講師：未定

場所：西要寺本堂

浄土真宗本願寺派 **西 要 寺**
〒661-0024 電話 06-6429-8241
尼崎市三反田町1丁目7-27 FAX 06-6429-8239

